

少年消防クラブ  
交流会(全国大会)

## 少年消防クラブ交流会(全国大会)について

将来の地域防災の担い手育成を図るため、国を中心に関係機関が協力し、少年消防クラブ員が消防の実践的な活動を取り入れた合同訓練等を通じて他の地域の少年消防クラブ員と親交を深めるとともに、消防団員等から被災経験、災害教訓、災害への備えなどについて学ぶ「少年消防クラブ交流会」を平成24年度に東日本地域の少年消防クラブを対象として岩手県で、平成25年度には西日本地域の少年消防クラブを対象として徳島県で開催しました。

それぞれ大きな成果があったことから、全国大会を平成27年度は徳島県で、平成28年度は宮城県南三陸町で開催しました。(※平成26年度大会は台風の影響により中止。)

ヨーロッパでは2年に1回、ヨーロッパ各国の少年消防クラブメンバーが集合して消防の実践的な活動を折り込んだゲームをする消防オリンピックというような大会を開催しています。平成21年7月に開催された大会には日本から初めて、少年消防クラブメンバー20人をチェコで開催された大会に派遣しました。全国大会では、消防オリンピックで実施されている消防障害物競技と400m障害リレーを参考にした合同訓練を行っています。

合同訓練の内容については、次ページ以下のとおりです。

### 平成27年度入賞クラブ



1位 三郷市少年消防クラブ



2位 豊田市立竜神中学校少年消防クラブ



3位 高津ジュニアハイスクール消防隊

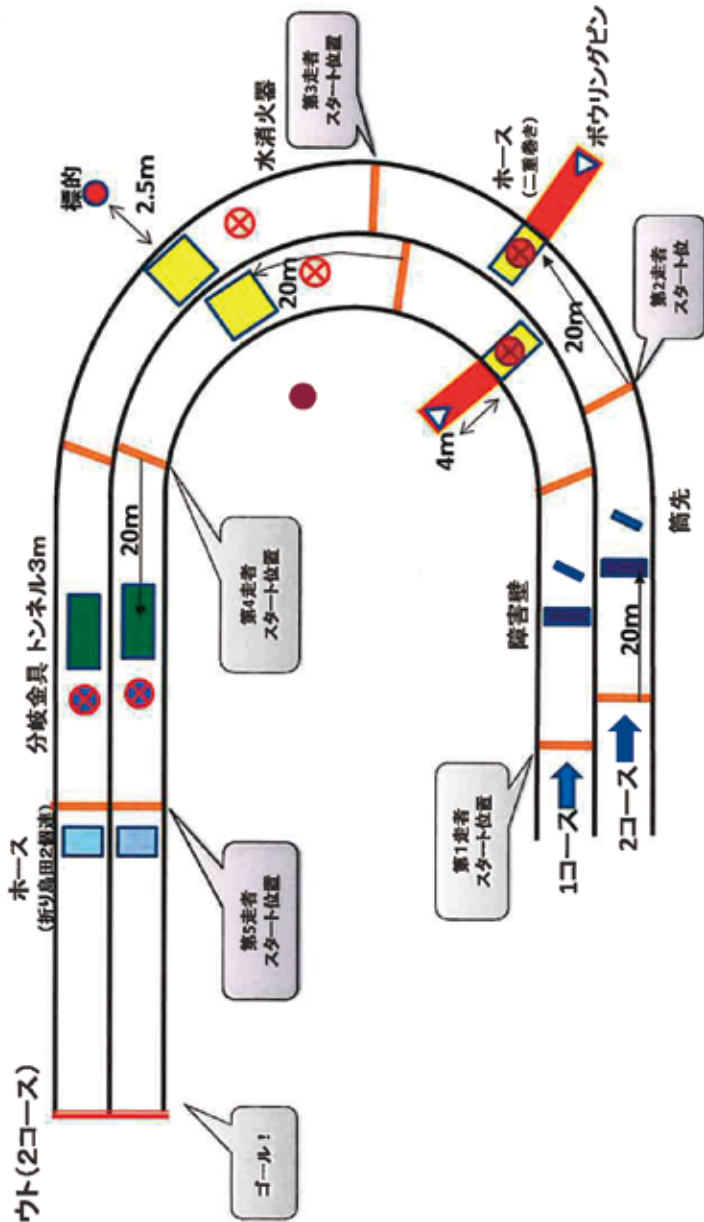


4位 浦安市少年消防団



5位 若草中学校少年消防クラブ

クラブ対抗リレー コースレイアウト(2コース)

















- 第1走者 40m
- 第2走者 40m
- 第3走者 40m
- 第4走者 40m
- 第5走者 40m

概要

- ・1クラブ5名で行うものとする。
- ・全走者40mとする。(全長200m)
- ・筒先をバトン代わりに使用する。

障害	第1走者	第2走者	第3走者	第4走者	第5走者(アンカー)
障害	障害壁	ホースポウリング	水消火器	トンネル	ホース延長
共通事項	審判員の合図(号砲又は笛)でスタートし筒先(バトン)をリレーしながら、アンカー(第5走者)がゴールラインを通過して筒先(バトン)を地面に置くまでのタイムを競う。 なお、競技ルールから逸脱した動作や行動があった場合は減点とし、タイムに加算する。				
内容	審判の合図によりスタートし、障害壁(高さ1.5m)を乗り越え、筒先(バトン)を取って第2走者へ渡す。	指定の枠の中まで移動し、ホース張強によりポウリングピンを倒す。	水消火器を搬送し指定の枠の中に置き、水消火器を噴射し標的を2つ倒す。	トンネルをくぐり、分岐金具を搬送し、第5走者へ筒先(バトン)と分岐金具を渡す。	40mmホース2本と筒先と分岐金具を結合しホースを延長する。ゴールラインを通過したら筒先(バトン)を置く。

各走者競技詳細

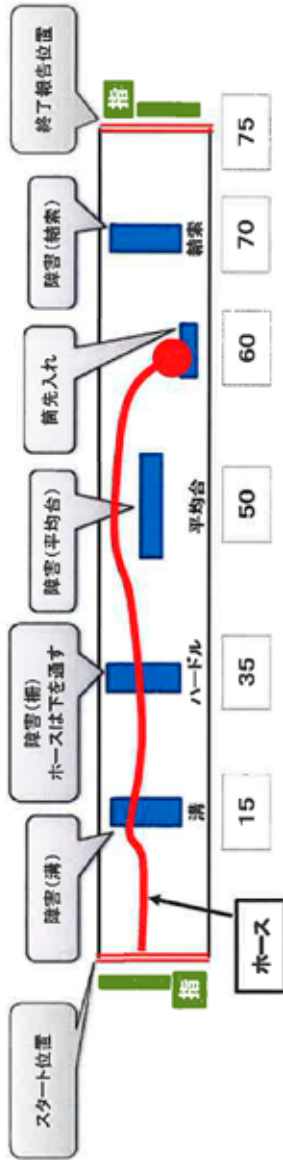
<p>第1走者 40m</p> <p>スタートしたら20m先にある障害壁(高さ1.5m)まで走り、1. 2段目のバーに手を、3. 4段目のバーに足を掛け障害壁を登り、降りるときは1. 2段目のバーに手を、3段目のバーに足を掛け降りること。(飛び降りてはならない。)</p>	 	<p>障害壁の先にあるバトン(筒先)を拾い、次走者へ渡す。</p>
<p>第2走者 40m</p> <p>バトン(筒先)を受けた後、前方20mに置かれた二重巻きホースまで走り、ホースを拾い上げ、4m先に置かれたポウリングピンに目掛けてホースを展開する。その後、バトン(筒先)を携行。残りの距離を走った後バトン(筒先)を次走者に渡す。</p>	  <p>ホースポウリング要領</p>  <p>バトン(筒先)を拾う。</p>	<p>水消火器の扱いは、バトン(筒先)を地面に置いて実施。水消火器終了後、バトン(筒先)を再び携行する。 (水消火器はクレンダマーを使用)</p>
<p>第3走者 40m</p> <p>バトン(筒先)を受けた後、前方15mに置かれた水消火器を拾い上げて、さらに5m先の指定の枠(白線)まで搬送し、2. 5m先に置かれた標的を2つ倒し、バトン(筒先)を次走者に渡す。</p>	 	<p>バトン(筒先)を受けた後、前方のトンネルをくぐり、その先に置かれた分岐金具を拾い上げ、次走者へ分岐金具とバトン(筒先)を渡す。</p> <p>トンネルをくぐる。</p>  <p>トンネルの先に分岐金具が置いてあります。</p>
<p>第4走者 40m</p> <p>バトン(筒先)を受けた後、前方のトンネルをくぐり、その先に置かれた分岐金具を拾い上げ、次走者へ分岐金具とバトン(筒先)を渡す。</p>		<p>バトン(筒先)を受けた後、前方のトンネルをくぐり、その先に置かれた分岐金具を拾い上げ、次走者へ分岐金具とバトン(筒先)を渡す。</p> <p>バトン(筒先)を受け取る。</p>  <p>分岐金具とバトン(筒先)を結合する。</p>  <p>ゴールした後は、筒先を地面に置く。</p>
<p>第5走者 40m</p> <p>分岐金具とバトン(筒先)を受けた後、分岐金具と島田折りホースを結合する。その後、バトン(筒先)と島田折りホースを結合し、ホースを延長しながらゴールする。走者はホースにつないだバトン(筒先)を持って走り、ゴールラインを超えたら地面に置く。</p>		<p>バトン(筒先)を受けた後、前方のトンネルをくぐり、その先に置かれた分岐金具を拾い上げ、次走者へ分岐金具とバトン(筒先)を渡す。</p> <p>バトン(筒先)を受け取る。</p>  <p>分岐金具とバトン(筒先)を結合する。</p>  <p>ゴールした後は、筒先を地面に置く。</p>



### クラブ対抗障害物競争

#### 概要


- ・1クラブ5名で行うものとする。
- ・指揮者1名を含む5名でコース上の障害をホースを展張・延長しながらゴールする。
- ・直線75mのコースを用いる。



	指揮者	1番員	2番員	3番員	4番員
スタート時運行資機材		筒先	40mmホース	40mmホース	40mmホース
共通事項	スタートの合図(号砲又は笛)でスタートし、障害を越えながら二重巻きホースを展張・延長・延長し、結束を行った後、クラブ員全員がゴールラインを通過するまでのタイムを競う。 なお、競技ルールから逸脱した動作や行動があった場合は減点し、タイムに加算する。				
競技内容	スタート合図とともに、各障害を越え、結束を行った後、各番員の行動を監視し、全員が整列し終わったら、右手をあげ合図する。	スタートの合図で筒先を誘行し、各障害を越え、平均台の先にて2番員のホース延長を待つ。その後、筒先入れに合わせた後、筒先を結束し、筒先を向かい、結束終了後、終了報告位置に整列する。	スタートの合図で二重巻きホースを搬送しながら各障害を越え、溝を越えた位置で4番員のホース延長を待つ。その後、自分のホースを延長しながら平均台を越え、平均台を越えた位置で待っている1番員が誘行している筒先を自分のホースを結合し、結束終了後、終了報告位置に整列する。	スタートの合図で二重巻きホースを搬送しながら溝を越え、溝を越えた位置で4番員のホース延長を待つ。その後、自分のホースを延長しながら溝を越え、溝を越えた位置で待っている2番員が誘行している筒先を自分のホースを結合し、結束終了後、終了報告位置に整列する。	スタートの合図で二重巻きホースを延長しながら溝を越え、溝を越えた位置で待っている3番員が誘行している筒先を自分のホースを結合し、結束終了後、終了報告位置に整列する。

※ホースとホース、またはホースと筒先の結合は、全走者、次走者のいづれが実施してもよい。また、双方が協力して結合してもよい。

各障害等の詳細

障害(溝)	障害(槽)	障害(平均台)	筒先入れ	障害(結束)
<p>スタートから15m コース上に設置された障害物 (溝)を飛び越える。奥行90cm</p>   <p>奥行90cm、幅180cm 水色のラインが引いてあるコンパネ</p>	<p>スタートから35m ハードルを飛び越え、ハードル の下をホース延長させる。</p>   <p>ハードルの下をホース延長させ る。</p>  <p>長さ300cm、高さ30cm 幅10cm</p>  <p>幅68cm、高さ45cm</p>	<p>スタートから50m 平均台(既製品)を渡る。 ホースは、平均台の脇左右ど ちらかを延長する。</p> 	<p>スタートから60m 延長してきたホースに筒先を結 合し、指定の箱に納める。 各結合部のはずれはペナル ティーとする。</p>    <p>42cm x 30cmのボックス</p>	<p>スタートから70m 全員(指揮者含む。)が結束を 行う。 (巻き結び×2、もやい結び、本 結び、ブルージック各1) 結束の間違いはペナルティーと する。</p>  <p>すべての作業が終わったら、 ゴール地点に、並んで集合し、 指揮者が右手を挙げ、合図を する。(タイム計測は、全員が ゴール地点を通過するまでとす る。)</p> 

## 少年消防クラブ交流会（全国大会）が初開催

初めての少年消防クラブ全国交流会が総務省消防庁主催により平成27年8月5日（水）～7日（金）の3日間、徳島県で開催され、北海道から鹿児島までの20都道府県の45少年消防クラブ、クラブ員247名、指導者71名が参加しました。

この交流会は、将来の地域防災の担い手（消防団等）の育成を図るため、消防の実践的な活動を取り入れた訓練等を通じて他地域の少年消防クラブと交流を深める目的で開催され、開催に当たっては、徳島県、（一財）日本防火・防災協会、（公財）日本消防協会、（公財）徳島県消防協会が協力しました。

1日目は徳島市内のホテルに集合し、事務局より交流会のスケジュール及び注意事項等の説明が行われました。夕食会では、各参加クラブから自己紹介がありその後は、徳島県阿波踊り協会所属の「娯茶平連」による阿波踊りが披露され、クラブ員全員も「娯茶平連」の皆さんの指導を受け阿波踊りで親睦を深めました。

2日目はいよいよ合同訓練です。

徳島県消防学校を会場に、ヨーロッパで行われている青少年消防オリンピックでの競技を取り入れたクラブ対抗競技による合同訓練が行われました。

クラブ対抗リレーでは、消防ホースの筒先をバトン代わりに、リレーをしながらアンカーがゴールラインを通過して筒先を置くまでのタイムを競いました。

クラブ対抗障害物競争では、直線65mコースに置かれた障害物をクリアしながら、二重巻きホースを延長し結索を行った後、終了報告位置に整列するまでのタイムを競いました。

成績上位5クラブは以下のとおりです。

クラブ対抗リレー及び障害物競争結果

- 1位 埼玉県三郷市少年消防クラブ
- 2位 愛知県豊田市立竜神中学校少年消防クラブ
- 3位 神奈川県高津ジュニアハイスクール消防隊
- 4位 千葉県浦安市少年消防団
- 5位 兵庫県若草中学校少年消防クラブ

合同訓練終了後、会場を美馬市都市公園内にある「うだつアリーナ」に移し、避難所体験として美馬市消防団のご協力を得ながら、この日の就寝場所となる段ボールハウス作りを行いました。

夕食時は、美馬市婦人防火クラブ連合会の皆さんによる炊き出しでした。参加者たちは豚汁やカレー等を美味しく食べていました。

3日目は美馬市消防団との交流が行われ、過去の災害時の体験談や火災時等の活動内容、消

防団に入った動機までについて、グループごとに分かれて話を聞いたり質問したりしました。

その後、7月にポーランドで開催された「青少年消防オリンピック」のビデオが上映され、そのオリンピックに日本代表として参加した、うずしお少年少女消防クラブから大会の報告が行われ、3日間の全日程を終了しました。

### 参加 45 少年消防クラブ名

#### 都道府県 クラブ名

北海道	伏古本町まわり少年消防クラブ	京都府	城陽少年消防クラブ
北海道	東月寒少年消防クラブ	大阪府	河南町ファイアジュニア
北海道	清田中央少年消防クラブ	兵庫県	ひよどり台防災ジュニアチーム
北海道	富丘少年消防クラブ	兵庫県	若草中学校少年消防クラブ
北海道	太陽わらべ太鼓少年消防クラブ	兵庫県	たつの少年消防クラブ
北海道	上江別第一自治会青少年消防クラブ	広島県	比治山学区少年少女消防クラブ
青森県	福浦少年消防クラブ	広島県	元宇品学区少年消防クラブ
埼玉県	三郷市少年消防クラブ	広島県	栗原少年消防クラブ
千葉県	浦安市少年消防団	広島県	6区少年少女消防クラブ
東京都	日本橋消防少年団	広島県	府中町少年少女消防クラブ
東京都	芝消防少年団	山口県	厚南地区少年消防クラブ
東京都	日本堤消防少年団	徳島県	うずしお少年少女消防クラブ
東京都	玉川消防少年団	徳島県	伊島少年消防隊
東京都	豊島消防少年団	香川県	瀬居幼少年消防クラブ
東京都	昭島消防少年団	愛媛県	久万中学校少年消防クラブ
東京都	日野消防少年団	愛媛県	美川中学校少年消防クラブ
東京都	秋川消防少年団	高知県	赤岡町少年防災クラブ
神奈川県	高津ジュニアハイスクール消防隊	福岡県	下曾根少年消防クラブ
神奈川県	大和市少年消防団	福岡県	第東中14区少年消防クラブ
神奈川県	湯河原町少年少女消防クラブ	福岡県	くすばし少年消防クラブ
石川県	内灘町子ども消防クラブ	熊本県	ひかり児童館少年消防クラブ
愛知県	豊田市立竜神中学校少年消防クラブ	鹿児島県	田皆少年消防クラブ
愛知県	尾張旭市少年少女消防団		





開会式



選手宣誓（徳島県・伊島少年消防隊神野海斗君）



クラブ対抗リレー



クラブ対抗障害物競争



クラブ対抗障害物競争



美馬市婦人防火クラブ連合会の皆さんによる炊き出し



立食の夕食



段ボールハウスでの避難所体験



美馬市消防団との交流

## 少年消防クラブ交流会（全国大会）を 宮城県南三陸町で開催

第2回目となる「平成28年度少年消防クラブ交流会（全国大会）」が、総務省消防庁主催のもと、平成28年8月3日（水）～5日（金）の3日間、宮城県南三陸町において、開催されました。当日は北海道から沖縄までの43の少年消防クラブ（クラブ員227名、指導者84名、合計311名）が参加して行われました。この交流会は、少年消防クラブ員が消防の実践的な活動を取り入れた訓練や避難所体験を通じて他の地域の少年消防クラブ員と親交を深めるとともに、地元消防団等から被災経験、災害教訓、災害への備えなどについて学ぶことにより、将来の地域防災の担い手の育成に資することを目的として、実施されています。

### 【1日目】

オリエンテーションや各参加クラブから一言ずつクラブ活動紹介、復興への祈りをこめた和太鼓演奏の鑑賞を行いました。

### 【2日目】

#### ■合同練習

平成の森しおかぜ球場（南三陸町）において、ヨーロッパ青少年消防オリンピックの競技種目を参考に、ホースの搬送・展張やロープの結索などを取り入れた競技式の訓練をクラブ対抗リレーにより行いました。

#### クラブ対抗リレー及び障害物競争結果

- 1位 愛知県豊田市竜神中学校少年消防クラブ
- 2位 埼玉県三郷市少年消防クラブ
- 3位 千葉県浦安市少年消防団
- 4位 宮城県歌津中学校少年防災クラブ
- 5位 神奈川県高津ジュニアハイスクール消防隊



#### ■避難所体験

南三陸町総合体育館「ベイサイドアリーナ」にて、南三陸町婦人防火クラブ連合会や南三陸町消防団の皆様方にご協力をいただき、アルファ米を使ったカレーライスやカップスープを食べました。

避難所体験として段ボールハウス作りを行い、グループごとに区画を作り、床の上にマットを敷いた寝床で就寝しました。

この「ベイサイドアリーナ」は、5年前の東日本大震災時では実際の避難所として、また津波災害対策本部としても使われ、多い時で1,000人以上が避難生活を送っていた施設でもあ

ります。

### 【3日目】

宮城県南三陸町消防団の団長より、東日本大震災時の活動状況や災害に備えるための心構え等のお話をしていただき、「日頃から地域の住民同士でコミュニケーションをとることが大切。そして自分の命が助かったら、まずは水の確保。備蓄の他に、井戸や湧水などがどこにあるか知っておく。」などアドバイスいただきました。

その後、宮城県気仙沼市 階上中学校少年消防クラブによる活動発表では、東日本大震災において“なぜ逃げ遅れてしまった人々が多かったか”など住民にアンケートをとった結果や、教訓をもとに日頃学校で取組んでいる防災活動などについて発表をしていただきました。



### 参加 43 少年消防クラブ名

都道府県	クラブ名	東京都	町田消防少年団
北海道	伏古本町ひまわり少年消防クラブ	東京都	日野消防少年団
北海道	清田中央少年消防クラブ	東京都	秋川消防少年団
青森県	福浦少年消防クラブ	神奈川県	大和市少年消防団
岩手県	浅沢少年消防クラブ	神奈川県	高津ジュニアハイスクール消防隊
岩手県	長島少年消防クラブ	新潟県	笹沢少年消防クラブ
宮城県	階上中学校少年消防クラブ	富山県	高岡市立成美小学校少年消防クラブ
宮城県	歌津中学校少年防災クラブ	愛知県	豊田市立四郷小学校少年消防クラブ
宮城県	仙台市立宮城野中学校少年消防隊	愛知県	豊田市立竜神中学校少年消防クラブ
宮城県	歩坂町子供消防クラブ	愛知県	尾張旭市少年少女消防団
秋田県	能代市少年消防団	京都府	城陽少年消防クラブ
埼玉県	吉川松伏少年消防クラブ	大阪府	河南町ファイアジュニア
埼玉県	三郷市少年消防クラブ	兵庫県	尼崎市立常陽中学校少年消防クラブ
千葉県	浦安市少年消防団	兵庫県	ひよどり台防災ジュニアチーム
東京都	日本橋消防少年団	広島県	比治山学区少年少女消防クラブ
東京都	芝消防少年団	山口県	厚南地区少年消防クラブ
東京都	日本堤消防少年団	徳島県	伊島少年消防隊
東京都	蒲田消防少年団	高知県	赤岡町少年防災クラブ
東京都	矢口消防少年団	福岡県	くすばし少年消防クラブ
東京都	豊島消防少年団	熊本県	ひかり児童館少年消防クラブ
東京都	葛西消防少年団	沖縄県	名護市少年消防クラブ
東京都	立川消防少年団	沖縄県	伊平屋村少年消防クラブ



少年消防クラブ交流会(全国大会)



全国から 43 クラブ 311 名が参加した  
合同訓練の開会式



選手宣誓をする地元の  
歌津中学少年防災クラブ



クラブ対抗障害物競争



豊田市立竜神中学少年消防クラ  
ブが前回の雪辱を果たし優勝



南三陸町  
防災対策庁舎の献花台



段ボールハウスを作り避難所体験訓練



3日目は地元消防団員の活動報告及び  
東日本大震災の体験紹介